

令和7年度 第3回 桜井市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

日時 令和8年2月25日(水) 10:00~11:00

場所 桜井市役所本庁舎3階 災害対策本部室

参加者 会長：前野孝久

委員：土家靖起、河合淳好、上田剛裕、北尾春樹、中村正徳\*、林勤\*、清水正男、吉田敬岳、  
中井尚美、中芝重統

※委員に代わり代理者が参加

案件 (1) 第3期桜井市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定等の状況について

①策定に向けた進捗状況について

②企業版ふるさと納税の新規プロジェクトについて

(2) 桜井市移住支援金等について

①桜井市移住支援金制度の改正について

②桜井市地方就職支援金制度の改正について

(3) 地域未来交付金について

(4) 地方創生関連の国の動きについて

①地方創生に関する総合戦略の策定について

②地域未来戦略の策定について

(5) その他

## 内容

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 議事

(1) 第3期桜井市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定等の状況について

①策定に向けた進捗状況について

②企業版ふるさと納税の新規プロジェクトについて

・資料1・2を用いて、事務局より説明を行った。

パブリックコメントが終了したために、策定の手続きを進め、令和8年度からは新しい総合戦略のもと、地方創生の取組を進めていく。

また、総合戦略と関連して、地方創生の取組である企業版ふるさと納税についても、新しい事業を追加し、継続して進めていく。

### 質疑応答

○土家委員

・企業版ふるさと納税の映画制作による地域活性化プロジェクトについて、以前の映画撮影協力誘致予算との関連性、およびどのような方向で撮影されていくのか。

○事務局

・河瀬直美監督からの提案。若手監督による映画制作であり、具体的な監督選定や撮影場所は未

定。企業からの寄付を活用する形式であり、フィルムコミッションとは異なるスキームである。

○土家委員

- ・市内の大神神社などの魅力ある素晴らしいものが数多くあるので、町の魅力を引き出し、魅力ある情報発信に努めてほしい。

○清水委員

- ・パブリックコメントの意見がゼロだったことについて、市の認識がどうかと、なぜゼロだったのかについての分析があったか。

○事務局

- ・別の計画等もパブリックコメントを同時に実施しているが、関係性の深い総合計画（後期基本計画）には24件の質問が寄せられている。計画そのものに興味を持っていただいた人がどのくらいいるのが課題であり、市の計画がどのようなものであるか、自分たちの私生活にどう関係しているのかについて、情報発信を進めるべきであり、今後は市民に市の計画の進捗状況をきちんと見せることを考えている。

○清水委員

- ・分析としては「見せ方が悪かった」のではないかとのことであるが、「なぜを3回くらい繰り返す」ことにより、本来の課題・改善案を見つける手法がある。次の機会に実施してほしい。

(2) 桜井市移住支援金等について

①桜井市移住支援金制度の改正について

②桜井市地方就職支援金制度の改正について

- ・資料3・4を用いて、事務局より説明を行った。  
国・県の改正内容を考慮して、市の制度の改正を図ることとする。

**質疑応答**

なし

(3) 地域未来交付金について

- ・資料5を用いて、新しく創設された「地域未来交付金」について、過去の地方創生関係の交付金からの変更点を中心に、事務局より説明を行った。

また、令和7年度補正予算として、市が申請を予定している事業について報告。

**質疑応答**

○清水委員

- ・別の会議でも提案しているが、市の取組として、TYPEVのような他の自治体と共同で取り組んでいるもの、また取り組む予定はあるか。

○事務局

- ・取組としてはないが、奈良県が提供している「奈良スーパーアプリ」というシステムがある。今後、こういったものの活用可能性を探っていきたい。

(4) 地方創生関連の国の動きについて

①地方創生に関する総合戦略の策定について

②地域未来戦略の策定について

- ・資料6・7を用いて、事務局より説明を行った。

**質疑応答**

○土家委員

- ・地方創生の内容が経済中心にシフトしているようだが、予算規模や交付金の使い勝手などが以前と比べてどうか、また桜井市が地域未来型の交付金を活用した具体的な事業を考えているか。

○事務局

- ・予算規模が多少小さくなっており、国が求めるレベルが上がってきている。令和8年度での活用事業は現在のところ申請していないが、今後活用を検討していく予定。

○清水委員

- ・桜井市としての事業はないとのことであるが、クラスター産業の点について、ぜひ市も乗って行ってほしい。例えば、かつて木材産業のメッカであった桜井として、木材業界の再チャレンジや新しい産業構造を産官学で考える形で取り組みに乗ってほしい。

○事務局

- ・地域未来推進型の具体的な内容が示されたのが1月後半であったため、まだ検討が及んでいなかった。木材や素麺などの地場産業支援は戦略の柱でもあり、県が主導する計画への働きかけも含めて検討していきたい。

○吉田委員

- ・国の求める方向に寄り添うだけでなく、50年、100年のスパンで桜井市がどこへ進むのか、地域特性を見据えた根底の考え方を持って計画を進めてほしい。桜井市がどこへ進んでいくのかという根本的な方向性を持つことが大事であるとする。

○前野会長

- ・高市首相の下で強い経済で地域を活性化させるという国の考え方が加速することが予想される。制度の変化に遅れることがないように情報収集を行い、地方創生に取り組んでいく。

以上